

草の根技術協力（支援型）案件概要表

I. 事業の概要	
1. 対象国名	スリランカ民主社会主義共和国
2. 案件名	教育環境改善を通じた紅茶農園コミュニティ・リーダー育成事業
3. 事業の背景と必要性	スリランカの紅茶プランテーション農園の農園住民は、社会的、経済的また文化的にもスリランカのその他の地域社会から隔離されている。プランテーションは封建的色合いが残っており、農園経営者がプロトコールのトップに位置し、行政サービスも入りにくい。学校教育も、高校以上がほとんど存在せず、子どもたちの将来の選択肢も結果的に制限されている。プランテーションという特殊な社会構造と劣悪な教育環境下に置かれているコミュニティにおいては、住民の自発的な決定・行動も見られない。また、農園内コミュニティでは水栓やトイレなどのインフラを共同利用しているが、共同資源に対する意識が低く、適切な管理がされていない。よって、このような公共サービスや機会の提供が機能していない地域においては、コミュニティの自主的で能動的な取り組みが必要である。前事業では、青年層へ研修を行い、またその学びを実践する場・機会をアフタースクール・プログラムとして用意し、青年層に自信をつけた。当該事業においては、さらにその自信と実践をコミュニティへと波及させ、長期的に持続可能なコミュニティの発展を目指す。
4. プロジェクト目標	コミュニティ・リーダーたる青年層に対しての様々な取り組みにより、自発的に継続された農園コミュニティが教育、社会、保健衛生等生活環境を維持できる
5. 対象地域	中央州ヌワラエリヤ県ハットン・ディコヤ地域
6. 受益者層 (ターゲットグループ)	直接受益者：対象農園3か所に居住する青年層約60人（各農園20人程度） 間接受益者：対象農園の小学校に通う児童約180人（各校60人：小学校1、2年生）、農園コミュニティ住民約300人（各農園約100人）
7. 生み出すべきアウト プット及び活動	<p><アウトプット></p> <ol style="list-style-type: none"> 青年指導員が新たな青年層を指導・研修し、地域間でノウハウを共有することで、広く、持続的に青年層がコミュニティ・リーダーとして育成される。 青年層が青年指導員として育成されコミュニティ・リーダーとして学童補習（アフタースクール・プログラム）および地域の課題発見・解決を主導することにより、教育・衛生などのコミュニティ環境が改善するとともに青年指導員が活動する環境が整備される。 育成された青年指導員がコミュニティの問題や取り組みを農園地域の行政や、学校等地域の関係者等、農園内外の関係者へ発信・共有することで、コミュニティ環境改善に向けて、地域の関係者の理解促進がなされる。国外の関係者等の農園外部へ課題発信・働きかけが行われる。宇都宮大学の学生との連携を築くことにより、自分たちのコミュニティが抱える問題などを的確に伝える能力も養われる。 <p><活動></p>

	<p>1.1 事業実施にあたってのベースライン調査</p> <p>1.2 青年指導員となるための研修の実施</p> <p>1.3 青年指導員が研修の学びを実践するための実習</p> <p>1.4 青年指導員向けブラッシュアップ研修の実施</p> <p>1.5 青年指導員向けコミュニティ開発のための参加型開発研修および行動経済学研修の実施</p> <p>2.1 青年指導員によるアフタースクール・プログラムの実施</p> <p>2.2 共同水栓、ゴミ収集、トイレなどの共同財産が、農園コミュニティの住民による効果的な維持管理</p> <p>2.3 青年指導員によるコミュニティ・リーダーとして農園コミュニティでの生活上の問題を解決するための実践的な活動の実施</p> <p>2.4 青年指導員および農園コミュニティによる農園間での相互訪問</p> <p>2.5 県による青年指導員に対するキャリア・カウンセリングの実施</p> <p>3.1 農園内外関係者との定例ミーティングの開催</p> <p>3.2 農園コミュニティによる宇都宮大学学生とのオンラインや現地訪問での共修や対外発信イベントの実施</p>
8. 実施期間	2025年2月～2028年1月（3年0ヵ月）
9. 事業費概算額	9,980千円
10. 相手国側実施機関 (カウンターパート)	セワランカ財団（Sevalanka Foundation）
II. 団体の概要	
1. 実施団体／指定団体	国立大学法人宇都宮大学 国際学部栗原俊輔研究室
2. 主な活動内容	国際協力、特に途上国でのガバナンスの研究。スリランカのプランテーション問題については、25年関わっている。